

平成 15 年度 「子ども海洋リサーチ海辺・川辺の調査レポート」 “特別審査員賞” 受賞者ハワイ海岸線巡見 同行記

家族や学校の先生などに話を聞いたり、自ら足を運んで現場を調べたりして、身近にある川や海の今と昔を比較しながら地域の環境問題を考えることを目的とした「子ども海洋リサーチ海辺・川辺の調査レポート」には、全国の小学生・中学生・高校生から、実に 553 点もの作品が集まりました。

レポートの審査は、10 月 14 日と 29 日の 2 回に分けて行われ、宇多委員長（財団法人土木研究センター審議役）をはじめとする 9 名の審査委員が厳正に作品を審査し、入賞作品を決定しました。



553 点の力作



厳正に行われた審査会

アンドリーのハワイ見聞録

この度、553 点のなかから見事特別審査委員賞に選ばれた 6 名が 2003 年 12 月 20 日（土）から 24 日の 3 泊 5 日の行程で、ハワイ（オアフ島）への海岸線巡見へ行ってまいりました。普段体験できないようなオアフ島巡りに我アンドリーが同行してきましたので、ご紹介いたします。



オアフ島 ワイキキビーチ

ハワイ巡見に選ばれた6人の“調査隊”の面々



なんとハワイでホームステイの経験有り。

“名川町の国際人”
青森県 上平 啓史くん (中3)



ハワイ巡見はサンタさんのプレゼント！

“ムードメーカー”
愛媛県 壽山 智也くん (中3)



飛行機やバスの中でも読書をかかさない

“調査隊の博士くん”
岐阜県 島崎 謙くん (中2)



「リゾート」を注文！出てきた料理を見て、これなーに？

“チョッピリ シャイな”
福岡県 小賀 優平くん (中2)



レポートはチームで応募。残ったくじでハワイ行きが決定。

“強運の持ち主？”
岡山県 高原 奈美さん (高3)



参加者では最年少。初日は時差ぼけ？でややグッタリ。

“いつもマイペースな”
島根県 風岡 歩さん (中1)



調査隊と同行スタッフ 「ノースショア」にて

12月20日、いざハワイへ！

2003年12月20日18:00、大きな期待とチョットの不安を持ちながら成田空港へ集合した6名の調査隊。空港はかなりの混雑、先に出国手続きを済ませてからオリエンテーションを行いました。

今回の調査隊の隊長「B&G財団大島常務理事」。このような機会に恵まれたのですから、さらに見聞を広めてください、と挨拶。全員自己紹介を終え、軽い食事を済ませて飛行機へ乗り込みました。ワクワク……



空港の金属探知機に2人が待った。前途多難？の予感?? (ベルトのバックルが感知したものでした)



空港内でのオリエンテーション。まだ緊張気味の調査隊。



今回の調査隊の隊長「B&G財団大島常務理事」。よろしくお願いまへす。



12/20 日本時間 20:20～
現地時間 同日 6:30

もうすぐハワイ上空。朝日がとても綺麗に輝いていました。
飛行機は日本航空76便。行きは追い風に乗って約5時間半で到着。機内食もおいしかったです。

憧れのハワイに到着！まずは、ハワイ観光の名所を一回り。

12/20 10:00～12:00

調査場所【ヌアヌパリ・パンチボール・カメハメハ大王像】

ホノルル空港を後にした調査隊。まずはハワイはどんなところ？を探るため、観光名所を一回り。

天気は快晴！お昼まではまだ時間もある。時差ぼけにも負けず、まずは有名なヌアヌパリ・パンチボール・カメハメハ大王像を見学しました。

そういえばもうすぐクリスマス、市内はX'mas飾りで賑わっていました。



すっかり打ち解けた？調査隊 (カメハメハ大王像前)

水族館の裏側ってこんな風になってたんだ！

調査場所 【ワイキキ水族館】
12/20 14:00~17:00

ワイキキ水族館は、ハワイの海に暮らす 420 種類もの生き物を展示したアメリカで 3 番目に古い水族館(1904 年設立)。ハワイにしかない珍しいアザラシ” ハワイアンモンクシール”などを間近に観察しました。

また、調査隊は一般の人が立ち入り禁止の水族館のバックヤードにも入れてもらいました。そこにはハワイに生息する珊瑚や魚を研究している水槽などがあり、生態系維持の大切さや難しさを学びました。



歴史を感じさせるワイキキ水族館正面



説明は受話器みたいな機械で、英語・日本語・独語など切り替えられる



珊瑚やなまこ、海栗などの海洋生物を触らせてもらいました。

チョット一息・・・

ア！リゾット
食べてる



小賀くん です



調査隊の食事はどうしたの？

食事は旅の大きな楽しみの一つ。
今回の調査は、パックツアーと違い食事場所・内容を決めませんでした。
その日ごと隊員の体調や希望により食事内容や場所を決め、色々な料理を堪能しました。

ちなみに夕食を紹介すると

- 1日目 イタリア料理 (個人オーダー)
- 2日目 日本料理 (すき焼き他)
- 3日目 中華料理 (コース)

昼食ではハワイで有名なハンバーガーとグリルチキン、ランチBOXなどを頂き皆大満足でした。

朝食はホテルのバイキングでこれもGOODでした。

本日も快晴なり。グッスリ休んで、調査隊も元気一杯。

調査場所 【ダイヤモンドヘッド】

12/21 08:30~10:30

オアフ島の象徴とも言えるダイヤモンドヘッドへ片道 45 分のトレッキングに出発！途中裕子さんの解説で地質や植物を観察しながら頂上を目指しました。(スタッフは最後の急な階段で膝が笑っていましたが、調査隊は皆元気。)

知ってのとおり、ハワイは火山の噴火でできた島々。ダイヤモンドヘッドの噴火は 30 万年前に起き、今では死火山の外輪山です。一番高い部分が標高 232m のダイヤモンドヘッド・トレイルの山頂で眺める景色は絶景の一言でした。

下山後は休憩を兼ねてしっかりお勉強。ベンチで今見たばかりの地形・植物などをまとめました。



ダイヤモンドヘッドの山頂で眺める景色はまさに絶景の一言。



足取りの軽く、いざダイヤモンドヘッドへ



中腹付近を元気良く登る調査隊の面々。若い・・・



下山したら、見たものを忘れないうちにノートに書きとめます。

山を降りたら、次は海へ

調査場所 【サンセットビーチ】

12/21 11:00~12:00

いわゆる「ノースショア」と言われる地域でサーフィンのメッカ。ワイキキビーチとは対象的に荒々しい波が打ち寄せるサンセットビーチ。裕子さんの提案で全員裸足でビーチを散策、砂の粒子が粗く足が埋まります。こんな綺麗な海岸にもゴミが漂流、調査隊一同複雑な思いでゴミを見つめていました。



オアフ島の北側「ノースショア」
世界のサーファーの憧れの海です



綺麗な砂浜も、粒子が粗く歩きづ
らい。



日本では見られない植物に興味
津々の奈美ちゃん、歩ちゃん

2日目の最後は、歴史・文化を学ぼう！

調査場所 【ビショップ博物館】

12/21 14:00~16:00

次の調査地は、ハワイ王朝に伝わる宝の数々や歴史文化遺産が一同に揃い、環太平洋の生物学や人類学などの膨大な資料を誇る博物館。

カメハメハ一族の資料や原住民の生活様式など興味深いところであつという間の2時間でした。



格調高い雰囲気が漂う博物館。し
かし、隣はチョコレート工房??



カメハメハ一族の資料室。家系図
を見たら複雑～！



館内はボランティアの方に案内
していただきました。



ビショップ博物館からホテルへの帰り道、本来予定にはありませんでしたが、ハワイ沖で悲しい事故にあった「宇和島水産高校えひめ丸」の慰霊碑を訪れました。

調査隊の壽山くんも愛媛県出身。皆で犠牲者のご冥福をお祈りしました。

2度と不幸な
事故が起こり
ませんように。

調査3日目。

やっと海に入れる！！

調査場所 【ハナウマ湾及び海洋教育センター】

12/22 9:00～11:30

ハナウマ ベイはオアフでも 1、2 位を争う人気のビーチ。かなり前にハナウマベイを訪れた人は、カラフルな熱帯魚に餌付けができるビーチだとピンとくるはず。しかし、今は禁止。

ハナウマ ベイは自然保護区になっており、美しい海や自然、そしてここで暮らす多数の生物たちを守るための、海洋公園となっています。

調査隊はまず、海洋教育センターで火山噴火により誕生したハナウマ ベイの歴史や生息する海洋生物について勉強しました。

ついで、待ちに待ったスノーケリング。少し水は冷たかったけど、皆美しい海を体験できて大満足でした。



日本の海水浴場も利用前に自然の大切さを教えれば、ゴミなどなくなるだろうに。



火山の噴火で出来たビーチなので、地層も興味深い



やっと～海に入れる！！
おおはしゃぎの調査隊

ついに最後の調査地、ココナッツアイランドへ

調査場所 【ハワイ大学海洋生物研究施設＝ココナッツアイランド】

12/22 13:30～16:00

調査の最後は、一般人立ち入り禁止のハワイ大学海洋生物研究施設、交通手段はボートのみ。島ではハワイに生息する鮫やマグロ、珊瑚から微生物に至るまであらゆる海洋生物の研究がされています。

ハワイではいたるところで、外種から本来の生態系を守り、維持して行くための努力がされています。美しい海や環境を守るために・・・。



ハワイ大学海洋生物研究施設、通称ココナッツアイランド。交通手段はボートだけ。



一周徒歩で 30 分ぐらいの小さな島。しかし、その中にはハワイの海洋生物が凝縮、まるで自然の水族館。ポイントポイントで丁寧な説明をしていただきました。調査隊の皆もハワイ大学に入学したくなりたいです。

もう少し長くいたかったハワイ。ハナウマベイでのスノーケリングで見た珊瑚や熱帯魚が忘れられない。北は青森県から南は福岡県、全国から集まった 6 人の感想です。

ハワイ旅行は大人になってからも出来るけれど、今回のような体験・出会い・感動は今だから出来ること。

ハワイの自然は美しい、その美しい環境を守るために皆が努力を惜しまないハワイの人々。その一部に触れた 6 名なら素直な気持ちで“自然を大切にしよう”と言えるのではないのでしょうか。

今後の皆さんのご活躍をお祈りいたします。

ガンバレ調査隊！！お疲れ様でした。

BYアンドリー



環境保全に力を入れるハワイの人々に脱帽、 その取り組みを調査隊の子供たちも熱心に学んでいました。

㈱舵社 常務取締役 K A Z I 編集長

B&G こども海洋リサーチ調査レポート 審査委員

B&G 財団評議員

田久保雅己



「こども海洋リサーチ"海辺・川辺の調査レポート"」で審査員特別賞受賞した6名の中、高校生とともに、ハワイ・オアフ島の海岸線をはじめとする自然環境の巡見を行った、B&G 財団評議員の田久保雅己氏に、その感想をお聞きしました。

大人と子供で興味の対象が違うことにびっくり

「こども海洋リサーチ"海辺・川辺の調査レポート"」の審査で各作品を読んだ際、これらを書いた作者は、お祖父さんやお祖母さんから昔の話を熱心に聞く素朴な心を持った子供たちなのだろうなと思いました。

しかし、今回のハワイ巡見で特別賞を受賞した6名の子供たちに会ってみると、そんなイメージとは少々違うことに気付かされました。B&G 財団の職員や学校の先生のように普段、子供たちと接している大人は別にして、すでに自分の子供が青年になっている一般の中高年齢者にしてみると、子供のイメージはまさに我が子が幼かった頃のままになっているのです。つまり、10年ぐらいは平気でギャップがあるということです。その意味から、今回の巡見は最近の中学生や高校生と直に接することができ、とてもよい勉強になりました。

巡見に参加した6名の子供たちは、熱心にメモを取って勉強する子がいるかと思えば、陽気でムードを盛り上げてくれる子がいるなど、実にみんな個性がはっきりしていました。各々に自分の世界を持っていて、自分なりの価値観を身に付けています。これは、私のような50歳を過ぎた大人にしてみれば、驚くほど時代の変化を感じます。

その時代のギャップが見事に現れたのが、ハワイを発つ日に子供たちから聞いた巡見の感想でした。私としては、ダイヤモンドヘッドが外輪山の一角だったことが一番の驚きでしたが、彼らは口を揃えてハナウマベイでシュノーケリングをしたことが一番印象に残ったと語りました。

私のような世代にとってダイヤモンドヘッドは、まさにハワイの象徴であり、その言葉を聞いただけでサーフィンの姿が頭に浮かんだり、エレキギターの音色が聞こえてきたりするのですが、考えてみればそれは私たちの世代が抱く憧れの世界というだけの話なのです。ココナツアイランドで見学した環境保全の研究にも興味を持ちましたが、子供たちにとっては2番目、3番目の印象だったようです。

エコツアーの価値を再認識

どうして、ハナウマベイが楽しかったのかと尋ねると、これも答えが一致していて、誰もが魚の泳ぐ姿やサンゴが生育している姿を自分の目で捉えることができたことと述べていました。今回の巡見では自ら体を動かして体験してみることが少なかったこともあるのですが、現代っ子は自分で行動してみることに強い関心があるように感じました。もっとも、そうした行動力がなければ、「こども海洋リサーチ"海辺・川辺の調査レポート"」で見せてくれた、アクティブな取材や調査はできないと思います。

また、たいへん勉強熱心な子が2名ほどいましたが、自然や環境に関する彼らの知識レベルの高さにも驚きました。もちろん、他の子供たちのレベルも想像以上で、時代とともに環境という言葉が重みを持ってきていることを痛感しました。高度経済成長という言葉がもてはやされた時代に少年期を過ごした自分と対比すると、まさに隔世の感ありといったところです。

ハナウマベイを訪れた際、ハワイ大学のボランティアがスライドショーを駆使しながら、ここの自然環境の実態をレクチャーしてくれ、子供たちも熱心に説明を聞いていましたが、こうした予備知識を身に付けたうえで実際にシュノーケリングを楽しむということは、大きな意味を持ちます。なぜサンゴを踏みつけてはいけないのか、その理由が表に出ないままであるなら、それはサンゴにとっても子供にとっても悲劇だからです。聞けば、ハナウマベイの環境保全に関しては、ハワイ大学やハワイ州が力を合わせて行っているとのこと。ココナッツアイランドで行われている、島全体を使った環境保護の研究にしても同じことが言えますが、とにかくハワイの人たちの努力には頭が下がります。また、実際にこうした現場に足を運んで熱心に説明を聞きながらメモを取って勉強していた日本の子供たちも、実に頼もしく見えました。これに関しては、説明して下さった人たちの努力によるところが大きいでしょう。

特に、巡見全般に渡って隈なくガイドして下さったワイキキ水族館の先生は、ハワイの自然にとっても精通しており、単にガイドをするだけでなく常に声を掛けながら、とかく散漫になりがちな子供の気持ちを上手にコントロールしながら、面白楽しく大切な知識を伝えてくれました。こうしたエコツアーは、今後、修学旅行など学生向けの課外授業として大きな価値を持ってくるのではないのでしょうか。この巡見を実現させたB&G 財団の企画力も評価に値すると思います。本当の意味における、ゆとり教育の実践だと思うからです。